

漁村に於ける Personality 形成

—Sociometry および Role Expectation の調査等を通
 じて見た環境条件に就て—※

中 村 省 吾

Personality Formation in the Fishing Community

—On the environmental circumstances seen through the sociometric
 test and the role-expectation survey—

By

Syogo NAKAMURA

The educational white paper of the Education-ministry has explained the low educational level in the fishing area. (See the paper published in 1959 by the Education-ministry). Although there is a need for clearing up the causes for the low level, this attempt is carried out to investigate the influence upon the school pupils influenced by the social consciousness and cultural level of the fishing community. For the right understanding of the social consciousness, the special character of social constructions and occupational circumstances are very important factors concerned. According to my survey, such circumstances as follows were made clear. The community consciousness usually has influence upon the children's society and intensifies their particular cohesive attraction in their school life. Thus the tendency mentioned above and low cultural level of the fishing community go hand in hand to make the negative condition for the educational environment. With regard to my survey method, I used the matrix-approach. However, the children of the fishing families compared with those of other occupation, a stronger cohesive attraction is shown by the former. Especially speaking, such a tendency mentioned above does not seem to be so particular with the pupils of the lower class of the primary school. However, the higher the class goes up the stronger it becomes.

And it appeared to me that the boys were more intense than the girls in the tendency. Therefore, such a particular cohesive attraction narrows their communication. Besides, there is an anxiety for making the pupils lead the sequestered life

※ 水産講習所研究業績 第325号, 1961年2月8日受理.

Contribution from the Shimonoseki College of Fisheries, No. 325.

Received Feb. 8, 1961.

in their cultural environment. And then, when the culture of the fishing community is low, the circumstances will be seriously concerned.

Such being the case, I surveyed the role-expectation of the fishing community, as the method for investigating the social consciousness seen through the educational and cultural condition of the fishing community.

Besides, I recognized a few special personalities.

Conclusion is as follows:

Considering the culture and the strong, particular, cohesive personality of the fishing community observed through the sociometric test, I pointed out some unfavourable elements for the educational condition.

一、問題の所在

文部省の学校教育調査の結果が逐次発表されているが、それには漁村地域の教育水準が最も低いことが示されている。

この原因はあらゆる角度から究明されねばならないことであると思う。

この調査研究は先ず意識の面より漁村の実体を把握し、それを教育との関連において考察しようとしたものである。

漁村心理の特質についてはさきに当研究報告人文科学篇第4号に漁村の社会構造との関係においてその社会意識の特徴を挙げその中核となるべきものが共同体的感情であることを指摘したのである。そこでこの調査は、その共同体的構造を持つ社会意識が子供の中に如何なる形をとり現われて来るかを sociometric-test を通じて把握し、更にこれが教育上にどのような作用を及ぼすかを検討したものである。これを結果的にいえば凝集性が強いことが明らかとなるのであるが、このことは反面 communication を狭げめ躓踏された文化内に孤立するおそれがあると考察される。このことを内容的につきとめるために漁村社会に流れている機能としての role-expectation の調査を行ったのである。

なおこれらの問題を検討した後漁村の子弟の学習事情や物的教育環境条件にも触れて参考資料とした。

二、Sociometry の調査に見られる漁村生徒の傾向

調査対象としては玄海灘沿岸のうち山口県豊浦郡豊浦町小串地区を選んだ。その理由としてはまず同漁村集落がかって純粹漁浦として形成され、現在に至ってもまだ專業漁家集落だからである。次の理由は、この漁浦の形成なり構造なりを以前に研べているのでその発展として扱えること、但し最大の理由は、その集落構成の位置的特徴にある。

小串集落は海岸に沿って漁家集落が連りそれと併行かつ隣接の南北に走る街道の両側に小店街が形成され両者は連続している。住宅地は更にその東側に引続いて建ち並びまた農村地帯も東北方に展開している。従ってあらゆる職業の集落または屋並がまとまった一つの町を構成しておるために、生徒の交際において距離とか部落とかの位置的影響をうけることが殆んどない。即ちこの町を選定することによって、地域的因子を自動的に捨象することが出来るからして本調査に最適と思われたからである。

調査方法としては、昭和35年3月新年度のクラス編成に際し生徒各自の希望を担任教師に提出するとうゆう機会を設けた。その中より調査対象として小学校四年中学校一年及び三年を選んだ。各自の提出事項は次の通りである。

- A 同一クラスを希望する对手の名前を順次あげる。
- B 現在親交している友人の名前をその度にしたがって順次あげる。
- C 同じクラスであってほしくない人があればその名前を順次あげる。

整理法は matrix approach によった。そのうち中学一年男子のものを Table. 1. に示す (折込)

表中の数字は生徒名列を示す。智能段階と今一つ家庭の職業をつけ加えた。

選択欄の記号は前記3項の、A項をA、B項をBで表わし同様にC項をCとした。なお各々の第一順位を円でかこんで明らかにした。

その他現在級組織が分るように区切をつけた。

さて中学一年の男子及び女子の matrix に就いてさらに家庭の職業別とA項やB項の項目別とを組み合わせ整理したものが次の表である。

〔中学一年男79人女65人()は%〕

家庭職業 男女人数		漁業	製造	公務員	給料 その他 生活	日傭 労働	卸小 売	農 業	建 設	サー ビス	無 職	そ の 他	
		男 22	女 14	4・6	10・12	13・13	6・6	6・6	3・3	2・1	3・2	6	10
A の 場 合	第一順位者が自家と同 職種である場合の頻数	9	4	1	1	1	2					1	
	選択総数(分母)に対す る選択同職種者(分子)	(14)	(29)	(10)	(8)	(7)	(15)						
B の 場 合	第一順位者が同職種 である場合の頻数	7	5	1	2	2	2						
	選択総数に対する選択 同職種者頻数	(32)	(36)	(10)	(17)	(15)	(5)						
		19	6	0	3	1	8	5	9	2	0	1	1
		(46)	(27)	(12)	(16)	(13)	(30)	(25)	(43)	(14)	(5)	(16)	(25)
		(41)	(22)	(19)	(8)	(27)	(20)	(21)	(14)	(6)	(6)	(20)	

この表中で男女の区別は各枠内の左が男子右が女子と位置で示すようにしている。分子と分母的表示はそれぞれ説明をつけた通りである。

() 内数字は%で分数の形のもはその計算通りであり、その形をとっていない、第一順位者を問題にする場合は、同職もそうでないものもこめた全体に対しての同職選択の割合を意味する。

今この表によると、選択総数に対する家庭同職種者選択 (以下家庭を省略する) の比率の最も高いものは漁家子弟であって、ことに同職種を第一順位に選んだ者が他の職種の子弟よりも格段に多いことに注目される。

次に比率の高いのは給料生活者の子弟で更にこれを公務員と会社その他の群に分けて見ても同じ位の率である。ことに女子に高い。ここにも説明を要するなにもものかがあるように見える。

同職種を選択しない傾向のある職種としては無職、サービス業、日傭労働者等の女子の場合である。

そこでこれ等プラスあるいはマイナスの傾向のあるものを総合的に比較検討すると次の推定が引き出される。交友選択の場合理想像により近い相手を選ぶ傾向があるということである。この推定を得る手懸りはこの場合職業別と男女別の2つの反応を組み合わせることにある。

当地域では社会階層は所謂資本家対労働者といった形式はその儘では成り立たない庶民的社会である。実際では生活が安定し文化的生活を営み比較的上位の生活をしているのは国家公務員 (国立病院2つあり) を始め地方公務員、その他会社銀行等に通勤する所謂“給料とり”である。商店街は見掛は派手であるが内実

においては相当苦しい“やりくり”をしている卸小売店である。土地には大工場も大会社もない。家庭生活の内容がそのまま子供の Personality に滲み出るのは自然である。

さて表に現はれる男女差であるが、特に日傭労働者の子弟において同職選択が男に20%なり14%なりあるに対して女子に皆無であるという事実、また女子の選択理想(A)中最頻度は“給料とり”家庭子女でその総数20、(13+7)は総被選択数の46%にあたるに対して、その実在人員は女生徒数の9%に過ぎないという事実、これらの事実から女子の方が交友選択に際し理想タイプを求める要素が男子よりも多いといつてよいであろう。

知能も選択の因子として女子にあっては男子よりもより強く作用する如く見える。例えば現実に親交している第一順位よりも同一クラスであってほしい第一順位の方が知能が勝れている場合が14人でこれは全体の29%に当るが男子の場合は11人で16%に過ぎない。

その他女子には容貌に対する緊張度が高い等男子に見られない面がある。

あるいはまた未婚の女性は家の職業に固着しない自由さをもっているとする見方も成り立つ。女性は嫁入りの機会を持っており、そこには偶然の要素が多分に入るが男子の場合は積重ねで条件が異とする立場である。但しこれを結論づけるためにはそれなりの他の調査が必要とされよう。

さて以上の如き一般傾向があるにも拘らずなおかつ漁家子弟に同職種選択の多いことが問題である。ことに男子においてのみならず女子においてもそうである。現今沿岸漁業の不振は相当深刻であり従って経済状態も不安定をまぬかれない。文化内容においても生活態度においても他を引きつける程のものはない。そこでこの場合の誘引力は今迄挙げた因子よりも別の因子でなければならぬことになり、それを求めるのが本調査の目標でもあるわけである。

さてこの表中の男のBの場合における漁業、給与与活者、日傭労働者の各々における総選択数に対する同職種選択頻数と家業種外選択頻数との百分比の比較を χ^2 検定にかけた結果は0.05の危険率で有意が示された。

ところで中学一年生における交友選択は以上述べたような傾向性を示したが、更にこれを学年の進行という視点より考察する。そこで小学四年一箇学級と中学三年の一箇学級とを選定(共に第一組を抽出)して組構成員中よりききの調査Bの場合の「現在親交している友人の名前を順次あげ」させる方法をとった。調査対象を男生徒に限った。結果整理としては漁家子弟が同一職種選択即ち漁家子弟を選択したものの頻数と、他職種子弟を選択したものとを2つに分けて、その各々が全選択に対する百分比を出して、この結果を学年順に並べ比較した。これを図表化したものが次の表である。

項目 ()は%	対象人数		
	小学四年 男 7人	中学一年 男 22人	中学三年 男 4人
現在親交者中同一 職種(漁業)選択頻数	2 (17)	19 (41)	9 (64)
同じくその他の選択頻数	10 (83)	27 (59)	5 (36)

これによって見ると小学四年においては漁家子弟と雖交友選択において家業職種は因子としては顕われないにも拘らず中学一年には相当これが作用が見られ更に中学三年になると極めて明瞭にその傾向性が示されている。その比率は小学四年の17%から中学一年の41%、中学三年ともなると64%にまで昇っているのである。

特にこの表の資料ともなる中学三年の matrix においては選択第一順位者は100% 漁家子弟となっていることは重視さるべきことである。

今この表の特徴を χ^2 検定表に照らして見るに危険率0.02を示して有意であった。

そこでこの漁家子弟交友選択に現はれる 傾向の特殊因子を求めなければならないことになる。まず智能

であるがその一致度が交友選択要素の一因子であることは明かにされていることで、先にも触れたが、今中学一年の場合を見るに職業を問はず全体としてその選択総数45例（AとBを併す。段階を1に計算）中一致せるもの27不一致のもの18であり1.5倍となる。他方漁家子弟のみの選択における一致不一致の比率を見るに3：16で寧ろ不一致の場合が多くしかも5.3倍の逆率を示している。このことは漁家子弟の交友選択においては知能以外の他の強力な因子が作用していると考えられる資料となる。

そこでその他の因子のうちで著しいものは現在同クラスであるという条件の上に来た索引力である。これは前年前々年と次第に遠く薄くなりながらも一つの縁をなしている。中学一年の場合同クラス63異クラス13となっており同クラス選択頻度は86%の高率を示している。にも拘らずこの場合は、それが全体に一樣に作用していることであるからこの因子を除外出来る。

その他の因子として考えられるものを今一般的に挙げるとすると、地域、階層、人格、年齢、学歴、性等有るが、その中地域は調査地選定に際し述べたように已に消去している。年齢学歴もこの場合は問題外となる。性は拒否的因子として現れたのであって調査の表面に載らなかったのと、勿論全般一樣に作用する要素であるから除外してさし支えない。

そこで最後に残ったのが Personality であり、この因子こそ家庭の職業的雰囲気の中に種々な形態をとって含まれているものと考えられる。（階層については已述）

以上漁村子弟の凝集性、就中学校生徒社会にあって、なお下部構造的な凝集力を持つ機能を、問題としたのであるが、結局これは Personality の問題に絞られてきたわけである。

三、漁村の文化と Role Expectation

一つの社会成員が凝集性を高めることは、その社会にとって好ましいことに違いない。けれどもこれはどこまでも形式の面に限って云えることであって、内容は自ら別の問題に属する。従って評価はこの両面の総合的立場において始めてなし得られることである。

いま漁村の場合であるが、その社会はもとよりのこと、その子弟間に凝集性が強くこれが学校の生徒社会あるいは学級社会内において下部構造あるいは異質的構造をつくる傾向があるとしたら、更にそれが学年の進むにつれてますますその傾向を強めるとしたら、これは学校教育の全体系から見て単純に喜ぶべき現象であるとはいってられないであろう。

凝集性は一般的に見て、もし柔軟性を失うと、それが強いことが却って communication を狭めその他の社会（高次にしても平列にしても）と離れる傾向を持つに至るものであるが、ましてその社会の生活内容や文化水準の低い場合は一層、問題となるわけである。

そこで本研究の次の段階は漁村社会の意識傾向なり文化内容や水準なりへの調査が必要となってくる。その方法としてまず役割期待の調査を選んだ。子供は自己の所属する社会の社会意識の中でその要求にこたえて成長するもので就中親達の要求は子供にとって Personality 形成上大きい機能を持つことは今更云うまでもない。

この調査として昭和32年2月次の質問紙を小串中学校の父兄に配布し回答を求めた。

「あなたは自分の子供がどんな人になってほしいと思いますか」

回答を内容によって五項目とその他にまとめ更にこれを職種別に分析したが、その結果は次の表の如くになった。（項目中その他に属するもの、いわば回収紙数の少い職種は省略）

職種のうち漁業と卸小売業との対比を χ^2 検定にかけた結果0.01よりも少い危険率で統計価値が証された。

次に各職種において各項目をパーセントイルシ図表化したものが Fig. 1 である。漁家が農家と共に「親」や「家」に教育の重点を置いていることが明瞭であり、給料生活者や卸小売業者の技能や個人完成の徳へ関心を持つのと開きが見られることは注目に価する。

職種()は%	漁 業 33人	給 料 者 54人	卸 小 売 29人	農 業 11人
イ 孝 行 (家の繁栄を含む)	10 (29)	10 (19)	5 (17)	4 (36)
ロ 独 立 能 力 を 身 に つ け る	10 (29)	24 (44)	6 (21)	1 (9)
ハ 誠 実 ・ 責 任 感 ・ 正 義 観 等 の 徳 を 身 に つ け る	7 (22)	18 (33)	16 (55)	3 (27)
ニ 社 会 に 役 立 つ 人	1 (3)	2 (4)		
ホ 幸 福 な 人 , 他 人 に 愛 さ れ る 人	5 (15)		2 (7)	3 (27)

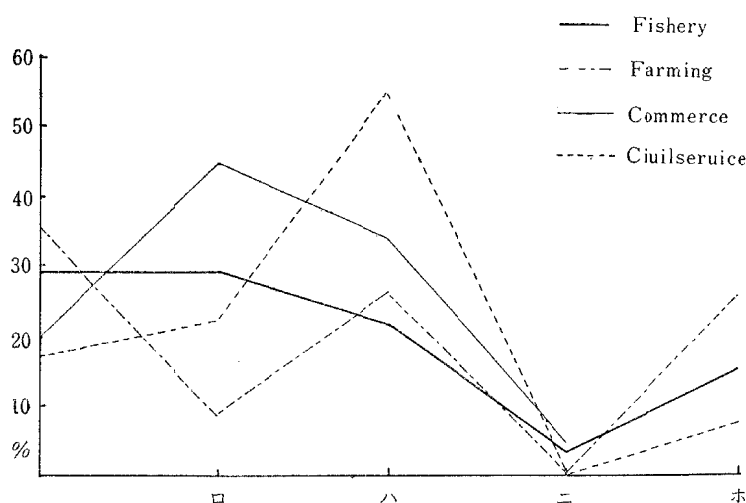


Fig. 2. Distribution figure of the educational purposes shown by their parents occupations

第二回目の調査を昭和35年12月に実施した。前回内容を回答者を書いて貰ったため回収率が悪かったのかんがみ、今回は予め10箇の教育への要求項目を用意しこれに印をつけてもらうことにした。なお10項以外の内容を持つ人は文章で書くよう依頼したが実際には1人しかその例はなかった。

特に第二回目の調査において留意した点は男女及び長男と二三男とを分析することの出来る用意をするということであった。娘に対する場合と息子に対する時は当然違うことが予想されるし、長男と二三男の間にも差異があるかも知れないからである。

選択項目及びこれへの回答を各職種に分けて整理したものが次の表である。

整理に際して所要回答を得られなかった職種は省略した。また選択項のアルハベットの説明の便宜に過ぎない。なおこの表についての数は息子に対するもので、娘についてのそれは除外したものであることを断らなければならない。

手続きとしてまず最初に娘に対するものと長男に対するもの二三男に対するものを分け更にそれぞれ職種別にした結果は、娘に対するものの中よりは職種による差異が得られなくて共通一様であった。即ち断然多かったのがg項の「素直でやさしく人に愛される人」で次がd項の「親を大切に親切にしてくれる」で今一つは「責任感」であって他は比較にならない程抜き離されていた。

娘に対するものでは一般性が見られ、例えば同県同郡豊北町角島を調査した結果もg項d項がやはり他と格段に開いていた。ただ角島においては責任の項が小串におけるもの程なかったが、小串は山陰沿線であるだけ現代化現象が進んだと解してよいであろう。

かく娘に対する回答には職種間の差異が見られないので、この場合一応除外することにした。長男と二三

Table 1. Matrix showing the selecting friends among the first grade boys in the Hoguati Lower Secondary School.

Number indicates the sign for every boy.

Abbreviations indicate their parents' occupations:

FA farming FI manufacturing FI fishery CE civil engineering
 C commerce I industry O civil service SE service
 SA related class DE daily employment

The matrix is a large grid with approximately 30 columns and 30 rows. It contains very faint and sparse data points, likely representing the 'selecting friends' mentioned in the caption. The data is not clearly legible due to the low contrast and the grid's interference.

男の間は前掲の角島においては著しい差異が見られたが小串においては大して変化がなかったので一緒にして息子という概念で括った。

職 種	漁業	公務員	会給社料生 社員生活 等者	卸小 売業	農 業
教育への要求項目 ()内数字は%					
a 近所や村の人達からとがくの批評うけないでほめられる人	3		1		
b 近所の人目上の老人におじぎや挨拶してほめられる子供	2		1		
c しっかり働いて家を栄えさせてゆくような真面目な人になる	8	1	2	1	3
d 親を大切に親切にしてくれるような子供になるよう	13	1	6	4	
e 責任感強くものごとを成遂げる迄辛棒強く努力する人	22	18	17	10	5
f 才能にあった技術や科学を身につけて一人前の人になる	9	13	10	9	4
g 素直でやさしくみんなに親しまれ愛される人となるよう	11	2	11	10	3
h 歌手でもスポーツでもとにかく世間にもてはやされる人					
i 世の中に役に立つことをして皆から感謝されるような人	4	2	2	4	2
j 世の中のまちがいはどこまでも直してゆこうとする人			2	1	
回答者数	72	37	52	39	17

さて各職種別に選択項をパーセントイルするに当っては類似内容の項は一まとめにした。aとbは共に地域社会が目標設定の基盤になっているので先ず一本とし、cとdとは一方は家を中心とし他方は親の個人感情を中心としたものではあるが広義の「孝」概念のもとにまとめ、更にiとjも一般社会に観点があるところから一本とした。()内数字は%である。

今これを見るに前回の調査と比較して質的变化が見られたわけではないけれども多少の動きは見る事が出来る。例えば全般的に「責任感」に非常な重みがかけて来たこと、また前回には「世のため」とか「社会正義」とかいう社会一般に対する関心が全く見られなかったのに対して今回は少数ながらそれらが出て来たことは注目に価する現象である。

さて職業別の傾向を見るにまず漁業においては近隣社会に対する顧慮が他職種にはあまり見られないのに現はれている。これは漁村の社会構造及び社会意識の性格よりして当然のことと思はれる。処がそれに引換え社会一般に対する関心は列挙した職種中最も低い。これをいうならば自分らの社会の漁浦のことは考えるが全体社会の動きに対しては大して関心が払はれていないということになる。これは丁度前記 Sociometry 調査の結果漁浦の子弟が学校生徒社会の中にあつて、自分等下部組織を造る傾向のあるのと照応している現象としておもしろく見られるところである。

孝行と責任感の両項は漁家において他と飛び離れて頻度が高いが、それなりに漁村においての内面的関連がこの両項にあるように思はれる。家を相続させる子供はなによりも「責任感強くものごとを成し遂げるまで辛棒強くやりとげる人」であつて欲しいことにならう。斯く責任感を更に分析する推論には根拠がある。それは角島調査に際しては全般的にいつて長男と二三男とに対する態度に質的差異が見られたのであつたが、その場合二三男の方に「才能にあった技術や科学を身につけて一人前になる」のf項が結び、この「責任感」の項は長男の方に直結していた。責任感が個人としての徳にとられているのならばこの場合には一個人として社会に出てゆく二三男の方にこそ結合すべきであり家を譲る長男には他にいうべきことがある筈であ

る。それが逆になったところに角島社会の責任観念があったわけで家が如何に大切に考えられているかの証明ともなる。

「責任感」の項は公務員の場合も第一位選択であるが、この場合は本来の意味におけるとられ方で父親の職責観念と無縁ではないであろう。

公務員と会社その他の給料生活者との態度には大したかわりは見られないが、公務員の方が個人本位の考え方が強くこの点漁業者と全く対照的存在である。農家が家を大切にすることは当然のことであるが、地域社会への顧慮が全然払われていないことに若干奇異を感ずるが然しこれが本然の姿かも知れない。

卸小売業者の場合は「素直でやさしくみんなに親しまれ愛される」ということが「責任」項と並んで目立っているが、この項は娘に対する最頻項であったことを併せ考えると、男の子にこれを要請することは如何に説明さるべきであろうか。これを両者等しく他人依存といっではいい過ぎであろうか。

とも角この表の中の数はそれぞれ親の子に対する願いを物語っている如くである。

回答者が母であるか父であるかは吟味を要すると思うが、全体を見渡した処対象の違は差違を発見しなかった。両親がある程度相談して書いたと思はれたので煩雑を避けて表にあらわさなかった。

さて元来職業という因子が子供の成長への期待として可成作用するということはあり得ることで寧ろ当然のことでもある。ただそれが柔軟性をもち全体社会の中において機能的であれば問題はない訳であるが、下部構造としての凝集が固く固有の社会意識によって鎖された場合はやはりこれを問題として取りあげざるを得ない。教育は原則的にいって育つ者の自発性の上に自由が与えられなければならないからである。このことの実現のためには子供への要求水準も考うべきことであるが第一視野が広く文化的素養が豊かでしかも高くなければならない。漁村社会意識の閉鎖的性格の形式面的追究も必要であるけれ共その文化内容の探索も大切である。

次にいろいろの面から漁村文化の一面を打診して見ることにした。まず崇拜人物を尋ねた処父親の場合最も多いのが乃木大将で26%を占め、次が吉田松陰で、二宮金次郎、野口英世、リンカーンがこれに続き明治天皇、木戸孝允という順序であった。母親の場合は回答者が9人のみで、しかもそのうち8人まで無記、中の一枚に吉田松陰と書いてあった。なお住居のうちに掲げてある額類を調査したところ肖像のうち最も多いのは祖先のそれで次が乃木大将であった。

次に文化傾向を知るヒントを得るためラジオ聴取内容と映画の印象について尋ねた。ラジオは漁業とゆう職業柄持たない家はなく天気予報やそれに続くニュースは問題外として、内容で他を引き離して聴かれているものが浪曲、次いで漫才、歌謡曲で、落語三つの歌、スポーツ(相撲)一丁目一番地等も見えた。

映画については「あなたのご覧になった映画の中で見てよかったと一番思われたものは何ですか」えの回答をまとめたがそれによると父親では路傍の石、親、忠臣蔵、明治天皇と日露戦争が多く、噓江田島、日本誕生、荷車の歌、風来物語等であった。母親の方では喜びも悲しみも幾歳月が筆頭で路傍の石、親、忠臣蔵、母子像がこれに続くものであった。もっとも土地の映画館が一つであるため出し物に偏向があることが予想されるが下関地区に出る機会も相当にあることと、記憶の中のいづれをとってもよいことではあるし一応の参考に成し得ると思はれる。因に公務員家庭の例を対照のため掲げる。綴方兄弟、娘妻母、人間の条件、路傍の石、忠臣蔵、生きる、第三天国、人間の壁、喜びも悲しみも幾歳月、哀愁等。(頻度の順)

次に極一般的な社会調査として家庭内人間関係と家の相続関係について調査した結果を記録する。

「家計は誰がうけ持つのがよいと思いますか」

主人がうけ持つのがよい	8人
妻がうけ持つのがよい	21人
祖父母がうけ持つのがよい	
特定の人に決めずそれぞれ持つがよい	7人

「家でものごとを決める時次のどれに賛成するか」

夫が唱えたことに妻が従う	3人
夫婦同等の立場で論じあう	17人
ことがらによりどちらかの主張に落付く	18人

以上は8人の母の外全部父親の回答であることを付記する。

「兄弟姉妹の間柄の教育は次のどちらに賛成か」

長幼の序をはっきりつけるよう努力する方がよい。	24人
自然にまかしてできる程度でよい	11人

「家を継がせるとすれば次のどちらに賛成か」

長男、女ばかりのときは長女	27人
年令や性で決めないで事情による	8人

「相続制度に対しては昔と今のどちらに賛成か」

家督相続	20人
均分相続	10人

宗教俗信の調査でまず宗教調査17例全部仏教浄土真宗であった。このうち5例は真宗以外の一切を排除している。仏以外を祀っている場合の内訳は皇大神宮（産土神社発売の神符）8例、金光教1、川中神社2、稲荷1例であった。恵比須弁天等を祀った例はこのほか可成り見られた。

漁村には蛭子信仰があって部落全部、即ち漁業協同組合の機関で祀る場合が多いが、ここの漁浦も瑞垣のある立派な神社を漁村全体で建てている。この浦も漁村形成期に成長繁栄したものであって、その昔祀った蛭子神は大岩の上に据えた石で、神社建築をした後と雖これはその儘保存しており漁浦の歴史を物語っている点興味深い。俗信として採集したものを記載すると、大安友引等どこにも行われている日取りに関するもの、左前の家は不幸が起るといった建築に関するもの、旅立に鼻緒が切れた、茶柱が立った等の凶徴瑞相に類するもの、それから名付上の忌字、結婚の合性さえまだいっている向もある。

荒神信仰としては三月荒神に逆うと主人に災が起る、家屋建築や嫁入の方角等気をつけねばいけぬとして恐れられている。

禁忌としては、師走の20日と正月20日は山の神がせち（ご飯）を焚く日だから山に入ってはいけぬ、もし入ると怪我をする。巳馬の日に餅搗をするとうりになる、また苗代をうえてはいけぬ。申の日に味噌を搗くとすえる（腐敗）。土用に漆喰を塗ると不幸が起る。土用に杭を打つと三つ口が産れる。また妊娠中籠をつきかえると三つ口が産れる。

右の如きものは付近一带社会通用のものであるが一般的には崩れつつある。

漁浦特有のものとしては船おろしの行事、正月の船飾り、大獲旗“まん直し”といって献酒の後酒を汲んで運勢の転回をはかる等あるがただ出漁に関する禁忌は見つからなかった。風等海上条件と漁撈条件さえよければ何日何時でも沖に出るわけで、かかる合理性の中には俗信が入り込む余地がなかったと思はれる。

四、参 考 資 料

以上は主として心理学的方法を通じて、漁村の教育環境条件のうち意識的文化的方面の検討をしたのであり、このことが当研究の目標でもあるが、なおその裏付資料として子供の置かれている教育的 situation 並びに物的条件追求という関連目標のもとに環境条件について調査した結果を参考資料としてあげる。

1) 教育環境内における子供の地位

i. 子供の家庭内で受ける賞讃或は叱責調査

発問様式は「あなたが家ではめられたり叱られたりしたことを近頃の例をあげて書いて下さい。また誰

にはめられたりしたかをもつけ加えて下さい」とし、その回答を類別しさらに家庭職種別にしたのが次の表である。

() 内数字は%

職 種	内 容	家業及び家事の手伝い	勉 強 成 績	兄 弟 げんか	口ごたえ	生活態度 性格矯正	おそく 帰る	失 錯	無 駄 づかい	無しと書いた者
漁 家		14 (50)	3	4	3	2	2			11
農 家		5 (63)	1	1			1			6
公 務 員		2	5 (26)	3	2	5 (26)	2			13
会 社 工 場 等 の 給 料 生 活 者		13 (41)	7	7	2	2		1		11
卸 小 売		11 (44)	4	2	1	6 (24)	1		1	7

なおこの賞讃あるいは叱責は全部で73例であるがそのうち母親が42例の59%、次が父親の22の30%、その他祖父母の5例と叔母の1例兄姉の3例であった。兄姉の訓戒は実際にはもっと多いと思はれるが、これを受ける方が已に中学生であるから馬耳東風と聞き流すためであろう。何としても母親が日常生活において如何に子供と緊密な関係にあるかが示されている。

さてその内訳であるが漁家は農家と共に断然家事家業の手伝いに重点がおかれていて50%を越えその他にはあまり関心が払れていないように見える。それに引かえ公務員家庭においては寧ろ勉学に力点が置かれそれと同じ程度において生活態度関係に配慮されていると見えるは、如何にも対照的である。

卸小売家庭の場合も手伝いを中心があるが生活態度や躰の面に関心がおかれているのはその職業柄対人関係に気をつく傾向からか。

なお事故欠席のうち「家の都合のため学校を欠席したことがあるかないか」について調査した結果を次に掲げる。

事 項 \ 職 種	漁 家	公 務 員	会 社 生 活 給 料 者	卸 小 売	日 備 勞 働 者	工 業	農 家
欠 席 した こと が ある	6	1	1	2	4	1	1
な い と 書 いた 生 徒 の 数	65	18	16	43	15	6	17

ii. 中学生の学習環境

a 指導を受ける機会について

「勉強を誰かにおそわり度いと思うときお家の方で教えて貰える方があるか」

内 容 \ 職 種	漁 家	公 務 員	会 社 等 給 料 生 活 者	卸 小 売	農 家
い る	28	31	16	29	7
い な い	47	8	12	18	10

「近所に誰か教えて貰える方がいるか」

職種 内容	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家
近所におられる	14	5	7	5	1
近所にもいない	33	20	13	33	9

「学校より別に誰かにきまって教わるようにしているか」

職 種 内 容	漁 家	公 務 員	会社その 他給料 生活者	卸 小 売	農 家
学校より別に教わっている	7	11	6	12	4
別には教わっていない	48	29	22	34	12

b 学習と家の事情

「あなたが勉強し度いと思っれているときお家の仕事や何か手伝のためそれが出来ないことがどれ位ありますか」

家庭の職種 内 容	漁 家	公 務 員	会社その 他給料 生活者	卸 小 売	農 家
出来ないことが度々ある	3		2		3
かなりある	8	3	1	3	2
時々ある	28	12	14	21	6
ほとんどない	15	22	12	24	2

2) 教育環境としての物的条件 (小串中学校関係昭和35年12月調)

i. 家庭環境設備

a 勉強机

職 種 事 項	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	工 場 労働者	工 業
自分だけの机を持っている	35	17	18	44	15	16
兄弟と一緒に使う机がある	22	3	9	7	4	5
机は無いが他のもので代用している	18	1	5	3	7	3

b 勉強部屋 (兄弟と共用を含む)

職 種 事項	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家	工 業	サービ ス業
勉強部屋を持っている	8	11	11	29	9	9	7
持っていない	60	10	8	21	10	13	17

c 勉強専用電灯

事項	職 種						
	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家	工 場 労 働 者	工 業
自分だけで使う電灯を 持っている	15	13	16	28	6	5	11
共用している	58	8	16	29	15	21	13

d 漁家電灯数

灯 数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11以上
軒 数	14	7	2	9	10	6	3	2			

e 電灯一灯のみの家の職種間比較

事項	職 種						
	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家	工場労働	工 業
電灯一灯のみの家の数	14	1	3	1	2	6	1
調 査 軒 数	59	21	17	33	21	25	23
職 種 別 灯 数 の 中 間 数	4	7	6	10	6	5	5

f 新聞講読調査

事項	職 種						
	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家	工 場 労 働 者	工 業
新聞を講読している	39	20	26	43	15	12	17
講読していない	41	1	6	10	6	15	8

ii. 中学生使用の辞典及び参考書調べ

事 項	職 種					
	漁 家	公 務 員	会社等給 料生活者	卸 小 売	農 家	
辞 書 類	冊 数	61	92	55	75	31
	調 査 人 数	35	33	22	33	14
	平 均 冊 数	1.7	2.8	2.5	2.3	2.2
参 考 書 類	冊 数	64	84	24	62	17
	調 査 人 数	24	25	12	24	7
	平 均 冊 数	2.7	3.4	2.0	2.6	2.4

辞書としては中学生では英語2冊国語2冊最少限度4冊は必要である。本統計をとるに当って該当欄に記入していないものは凡て調査数に加えなかったが、中にはあまり蔵書が少ないので記入をためらった者もいるであろうから実際にはもっと平均が下ることが考えられる。

この外学習雑誌がある。毎月講読のものを記させた処漁村からあがったものは、中学一年生、中学時代、高校進学の際か3冊に過ぎなかった。今他の職種と比較して見ると、公務員家庭では中学コース7冊高校時代2冊があがり、また会社等給料生活者の方には中学コース5冊中学時代学習図鑑各1冊宛中学生の友2冊があげられた。

物的条件としてその他考えられるものにテレビがあるが漁家はまだ調査の段階に入っていない。中学生の雑誌講読と共に各家庭の月ぎめ雑誌をも調べたが漁村であげられたものは婦人雑誌平凡各1冊週間誌1冊のみであった。楽器の調査の結果も、小学校で児童が用いるハーモニカや木琴類があるのみで何一つあがって来なかった。他の職種よりは琴三味線尺八、バイオリン等が可成り見えたのに対して漁家には文化的要素と見做されるものは何一つ発見されなかった。但しこれは調査が中学生をとおしてなされたため一部に限られ、全体の中には調査漏もあると思うが、それにしても大体の傾向はこれによって知ることが出来る。

以上教育の面より漁村の物的条件を一通り挙げたのであるが、結論としてその悪条件に一驚せざるを得ない。今更勉強部屋まで求めるのではない。勉強机も仮令共用であっても、更に二歩を譲って他の食卓その他で代用するとしても子供にさえ学習意欲が旺盛ならばこれを克服することも不可能事ではない。

しかし調査家屋53軒中その26%にも当る14軒までが電灯僅か一灯であるということは如何にして解決すべきか。幼い子供の就寝を待つのも一つの方法であろう。しかし夜おそく沖より父親が帰って焼酎の一杯も飲むとなれば判断を停止するより他ない。

かく物的条件より見てもそこに現今の学校教育に限界があるように思はれてならない。